ひろがる、ちちぶ

VOL.7
2026年 5月発行

秩父市ふるさと納税 返礼品提供事業者さんにインタビュー《ヒト・モノ・コト便り》

100年続く秩父銘仙の老舗織元

逸見忠織物（へんみちゅうおりもの）

逸見恭子（へんみきょうこ）さんにお話伺いました！

三代目として歩み始めたきっかけ

逸見織物は祖父が1927年に創業しました。もともと私は美容師になりたくて、家業を継ぐつもりはありませんでした。祖父には大反対されましたが、それを押し切って秩父を出て、都内の美容学校に進みました。卒業後は地元に戻って働き始めたのですが、就職して一年ほど経ったころ、祖父が倒れてしまったんです。当時、秩父の機屋は次々と廃業していたので、「灯は消したくない」という想いから家業を継ぐことを決めました。

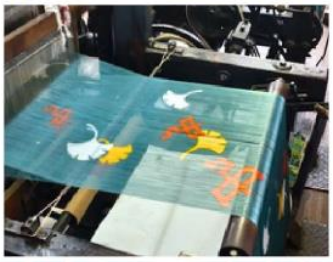
とはいえ私は全くの初心者でしたので、下仕事を全て覚えることから始まりました。一つの工程を覚えるのに一年、次の工程をまた一年、という風に積み重ねていくしかありませんでした。全ての工程が一日で終わるわけではなく、何年もかけてようやく身につく仕事です。私はずっとサポート役として修業の身でした。機場を任されるようになったのもかなり経ってからです。

現在、父は93歳、叔父は88歳。二人とも介護に通いながら仕事を続けています。一人では到底できませんし、若い担い手は少ないですが、兄嫁や従姉妹も手伝ってくれています。100年続いてきた仕事ですが、これから先の100年を繋いでいくのはもっと大変だと思います。それでも先人たちが残してくれた秩父銘仙を次世代に残していきたいと強く思います。

大切にしている想い

ものづくりをするときは、常にお客様のことを考えています。長くお付き合いのあるお客様が多いので、利益を追求するというよりも、これまでお世話になってきた方々が求めているものを形にしたいという想いがあります。特に夜祭の仕事がそうですね。現在は、急遽スケジュールが早まりタイトな状況ですが、長年のご縁がある大切なお仕事なので、夜祭に間に合うように全力で取り組んでいます。

自分たちが作るものは、消費されてすぐなくなるものではなく、長く残るものです。さらにリピートしてくださる方がいることは本当にありがたいです。今は着物を着る人が少なくなっているにもかかわらず、七五三の注文もいただきますし、そういったお客様に支えられているからこそ利益も生まれ、注文もいただける。人との繋がりの大切さを日々実感しています。



私がお届けします！

地域おこし協力隊
ふるさと納税担当 那賀

商品紹介

御朱印帳巾着

ストール

反物

↑↑ふるさと納税の返礼品にもなっています↑↑

がまポーチ

ミニがま

かわいい小物もたくさんあります♡♡♡

那賀

逸見織物出張所は秩父ふるさと館1階にあります。

秩父銘仙とは？

埼玉県秩父地方を発祥とする伝統的な絹織物です。江戸時代から養蚕の副業として始まった『秩父太織(ふとり)』をルーツとし、明治中期に『秩父銘仙』と名を改め、大正から昭和初期にかけては鮮やかな色柄の「おしゃれな普段着」として全国的に大流行しました。

明治41年（1908年）、秩父出身の坂本宗太郎が特許を取得した独自の技法『ほぐし捺染（なっせん）』により、それまでの縞模様から大胆で華やかなデザインへと進化を遂げました。この技法は、経糸を仮織りした後に型染めを施し、ほぐしながら織り上げるもので、裏表なく鮮やかに染まるのが特徴です。丈夫で表裏どちらでも着用できる実用性の高さから、庶民の日常着として広く愛されました。

現在、秩父銘仙を作る織元は数軒となりましたが、その技術と文化は今も秩父で受け継がれています。

今後の展望

呉服だけにとどまらない展開も考えています。小物やお土産品も手掛けていますし、銘仙ラベルのコーヒー企画もありました。今後はさらにいろいろな分野とのコラボレーションができないかと考えています。銘仙の魅力はあるのに思ったほど広がっていかない。だからこそ、新しい形で届けていく方法を探していきたいと思っています。

秩父はどんな街？

人懐っこい街ですね。ある意味おせっかいな街。困ったときには自然と声をかけてくれる人がいる。そういう距離の近さがある街だと思います。

なるほど秩父弁！

おてんたら

意味：おべっか、おだてる
お世辞を言う

逸見忠織物

●秩父銘仙老舗織元
〒368-0001　秩父市黒谷1463
●逸見織物出張所
〒368-0044　秩父市本町3-1
TEL：080-2673-3846

HP　Instagram

創業100年の老舗洋菓子店「ニューみとや」

100th new mitoya

since 1925

創業１００周年

昨年、ニューみとやは創業100周年を迎えました。イベントには約1,000人の方が来てくださり、改めて地域の皆さんに支えられてきた店だと実感しました。100年という時間は、一人では到底成し得ません。先代たちの積み重ねと、来てくださるお客様のお陰です。

萩原（はぎわら）由曜（ゆよう）さんにお話伺いました！

四代目として歩み始めたきっかけ

子どもの頃の記憶は、ずっと働いている父と母の背中ばかりで、家族で過ごした思い出は少なく、どこか孤独を感じていました。休みがほとんどない仕事だったので、「家業は継ぎたくない」と思っていました。高校ではソフトボールに打ち込み、推薦の話もいただきました。でも先生からは「故障したら大学を辞めるしかなくなるぞ」と言われ、そういう学力のところなんだと思い、将来を改めて見つめ直しました。ちょうどその頃、家業について考える機会があり、両親はほぼ３６５日働きながら、当時１００円～２００円の商品を売って自分をここまで育ててくれたんだ、ということに気付いたんです。

反抗期で一年半ぐらい口をきいていなかった父に、「菓子屋になりたいから、作り方を教えてほしい」と頭を下げました。父は何も言わず「いいよ」と言ってくれて。そのときから私の夢は「家業を継ぐこと」に変わりました。すぐに専門学校への進学を決め、そこからはもう迷わなかったですね。卒業後は都内で約10年、ホテルや個人店、ブライダル業界などで経験を積みました。30歳で地元に戻るという目標を立て、転職や経験を重ね、４年前に秩父へ戻ってきました。現在は父が社長ですが、私は四代目を名乗っています。それは、ただのスタッフではなく、責任を持って売るものに対して真摯に向き合い、意味のあるものを作り続けたい。その想いからです。

思い出に残る出来事

100周年の少し前、フリーペーパー「PALLET」の掲載をきっかけに、80代の男性から20枚もの手紙が届きました。「あなたのファンになりました」と書かれ、心に響いた言葉がたくさん添えられていました。手紙をもらうってすごく嬉しいですね。些細なことでも「誰かが見てくれているんだ」と実感しました。人の心を動かせたことが本当に嬉しかったです。まだ返事を書けていないのですが、必ず手書きでお返ししたいと思っています。

「見た目はレトロ、中身は令和」がコンセプト

店の外観はあえて変えていません。昔からのお客様が入りづらくならないようにするためです。長年地域の方に育てていただいた店だからこそ、親しみやすさは残したい。その代わり中身を新しく、がコンセプトです。お菓子は現在約１００種類あります。父は看板商品「秩父のかおり」を作り続け、他の商品は私ともう一人のスタッフが担当しています。私が入ってから中身は大きく変えましたが、お客様は「変わらず美味しい」と言ってくださいます。挑戦と改善を繰り返すことで、確実に良くなると信じています。

私が帰ってきてから始めたカヌレは特に人気で、「カヌレのイメージが変わった」と言っていただくことも多く、連日売り切れています。また、秩父の四季を大切にし、季節ごとに商品を変えています。ニューみとやをきっかけに農園や地域とつながり、人と街を知ってもらいたいですね。それが街おこしにもなると思います。

YUM! おすすめ商品

カヌレ

和栗モンブラン

バナナケーキ

秩父のかおり

那賀

「秩父のかおり」はふるさと納税の返礼品にもなっています！

●●秩父はどんな街？●●

当事者意識の溢れる街だと思います。意外と若い世代も芯のある人が多いんですよ。刺激を与えてくれる仲間が多くさんいますね。そういう人たちが多い街ってすごいなって思います。

●●なるほど秩父弁●●

「そーなん」意味：そうなんだ

★今後の展望★

今後は、お菓子だけではなく料理や総菜も提供できる店にしたいと考えています。フランスの菓子店のように、パンやデリ、チーズなどがそろい、一日中利用できる店。「おはようからおやすみまで」を支える存在です。ここに来ればすべてがそろう。地域の生活に余裕を生み、食で地域を支えたい。そして自分の挑戦が、周りの新しい一歩につながれば嬉しいですね。そんな地域のパイオニアになれたらと思っています。

【編集後記】１００年続くお店のお話を聞く中で、積み重ねてきた時間の重みと温かさを感じました。今回ご紹介したお二方のように、秩父には長く愛され続けているお店がたくさんあります。次はどんなストーリーに出会えるのか楽しみです。（那賀）

100th new mitoya since 1925

ニューみとや

〒368-0033　秩父市野坂町1-8-17
TEL：0494－22－1182
営業時間：10:00～18：00
定休日：木曜日

HP　Instagram